

No.	医療機関名	設置主体	現状													今後の方向性													2017年と2025年の病床数の差異																			
			第7期保健医療計画における役割 (※「医療機関一覧表」記載の有無)							医師数等 (2017年病床機能報告結果)						機能別病床数 ① (2017年病床機能報告結果)						各プラン、事業計画に記載された担うべき役割							機能別病床数 ② (アンケート結果)						②-①													
			がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	救急	災害	へき地	周産期	小児	在宅	医師数	病床利用率	平均在床日数	救急車受入件数	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等	非稼働	がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	救急	災害	へき地	周産期	小児	在宅	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・廃止等	介護医療院への転換	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・廃止等
1	岐阜県総合医療センター	公立	○	○	○	○	○	○	○	○	○	210.9	78.6%	9.1	5,721	604	326	264	0	14	0	0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	620	326	264	0	30	0		16	0	0	0	16	0	
			<p>○岐阜地域の基幹病院として、近隣の医療機関との役割分担・連携の下、高度・先進医療、急性期医療、政策医療等の県民が必要とする質の高い医療を提供する。 ●2025年に向けて、慢性期16床増。</p>																																													
2	岐阜市民病院	公立	○	○	○	○	○	○	○	○	○	165.0	82.0%	11.7	4,826	559	207	352	0	0	0	0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	539	187	352	0	0	0		▲20	▲20	0	0	0	0	
			<p>○救急医療・がん医療を軸とする高度・専門医療の提供 ○政策医療(救急医療、小児医療、精神科医療、災害医療など)の提供 ○地域医療機関との連携による切れ目のない「地域完結型」医療の提供 ●2025年に向け、急性期20床減。</p>																																													
3	羽島市民病院	公立		○	○	○	○				○	41.5	75.9%	13.3	2,032	271	0	178	76	0	17	17											○	271	0	178	93	0	0		0	0	0	17	0	▲17		
			<p>○地域住民の生活基盤として必要不可欠な二次救急医療・急性期医療機能を果たしつつ、地域に不足している回復期機能、及び在宅療養後方支援の機能を担う地域医療サービスを提供する。 ●2025年に向け、非稼働病床17床を回復期として再稼働。</p>																																													
4	岐阜大学医学部附属病院	公的医療機関等2025プラン対象	○	○	○	○	○	○	○	○	○	397.0	87.0%	11.1	1,393	577	577	0	0	0	0	0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	577	527	50	0	0	0		0	▲50	50	0	0	0		
			<p>○地域医療構想において「岐阜大学医学部附属病院(高度救命救急、ドクヘリ基地、基幹災害拠点、がん拠点等)が県全体の急性期医療の中心的役割を担い、岐阜県総合医療センター、岐阜市民病院、松波総合病院が、岐阜大学医学部附属病院と連携して、岐阜圏域の急性期医療の中心的役割を担う。」とされていることから、本院として、この方針に沿った役割を担う。 ●2025年に向け、高度急性期50床を急性期に転換</p>																																													
5	松波総合病院	公的医療機関等2025プラン対象		○	○		○	○			○	122.7	89.9%	13.7	3,813	501	262	60	120	59	0	0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	501	262	60	179	0	0		0	0	0	59	▲59	0		
			<p>○岐阜圏域南部地域の急性期医療・救急医療について 岐阜圏域では当院の他に、岐阜大学医学部附属病院、岐阜県総合医療センター、岐阜市民病院の4施設が急性期医療の中心的役割を担っていく。この中で当院が最も南部に位置していることを踏まえ、3病院の指導・協力を受けながら、岐阜圏域南部地域の急性期医療、救急医療の中心的役割を担っていくべきである。(※その他救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療、小児医療について記載あり) ●2025年に向け、慢性期59床を回復期へ転換。</p>																																													
6	長良医療センター	公的医療機関等2025プラン対象		○	○		○	○			○	36.2	70.6%	21.9	328	416	0	236	0	180	0	0	○	○									416	0	236	0	180	0		0	0	0	0	0	0			
			<p>○呼吸器・循環器疾患は、地域の高齢化率が高いことから、地域支援病院として急性期医療機能を引き続き担っていく。 ○周産期は、地域周産期母子医療センターを維持するとともに、小児科・小児外科・産科が連携して他院との医療従事者の相互派遣や研修等を行い圏内の産科医療体制の安定化に寄与していく。 ○障がい者医療(神経筋疾患・重症心身障害)は神経内科医師を配置してより専門的な医療を提供するとともに、神経難病も受入できる体制を構築する。NICU退院後の障がい児の在宅医療への移行に向けて、退院前後の訪問指導を行うなど家族が安心できる環境・体制を構築し、地域生活支援を行う。 ●2025年の病床数(予定)は現状維持。</p>																																													

